

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023 概要報告

2024 年 1 月
ESD 活動支援センター

日時：2023 年 12 月 9 日 10:30～16:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟国際会議室

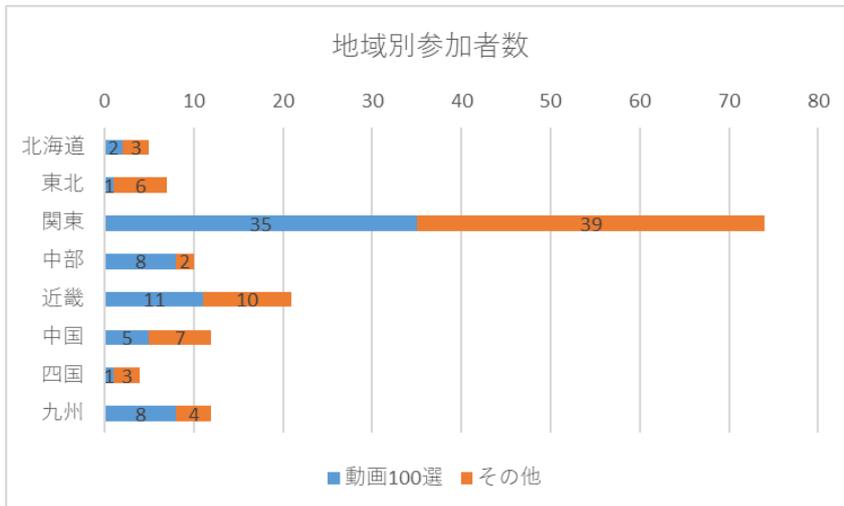
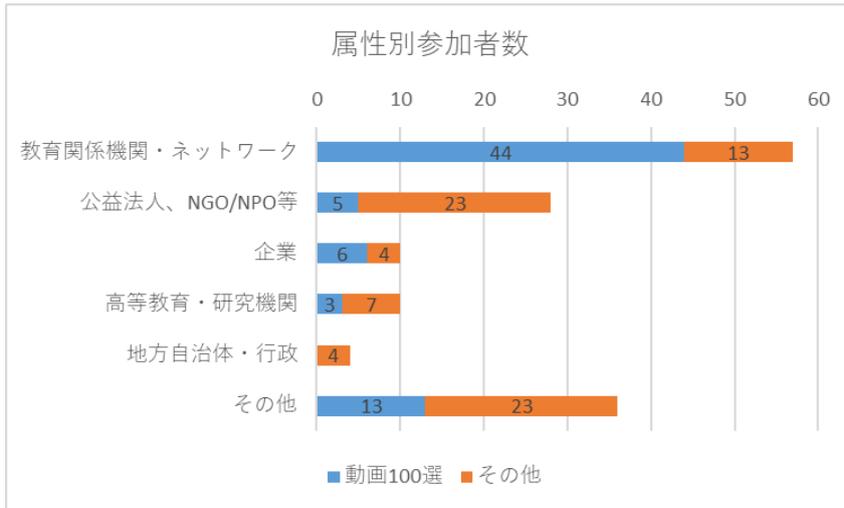
プログラム：

- 10:30 環境教育・ESD 実践動画 100 選認定証授与式
- 11:00 開会挨拶（環境省）
- 11:05 基調報告（文部科学省、環境省）
- 11:35 セッション 1：「気候変動を切り口とした ESD の意義とひろがり」
 <報告>
 藤本 早恵子（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター）
 小林 真緒子（次世代ユネスコ国内委員会）
 平田 裕之（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット）
 <モデレーター>
 白井 信雄（武蔵野大学工学部サステナビリティ学科 教授）
- 12:30 休憩
- 13:30 セッション 2：
 ピッチ①「ESD for 2030 学び合いプロジェクト実践事例の共有」
 <出展>各地方 ESD 活動支援センター ※ポスターセッション形式
- ピッチ②「ESD 全国ネットワーク団体の実践事例の共有」
 <報告>
 認定 NPO 法人開発教育協会
 公益財団法人五井平和財団
 国立環境研究所 気候変動適応センター
 公益財団法人消費者教育支援センター
 全国小中学校環境教育研究会
 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット ※ポスターセッション形式
- 15:20 全体総括：「ESD・気候変動教育の主流化に向けて」
 <進行>
 飯田 貴也（NPO 法人新宿環境活動ネット 代表理事、
 ESD 活動支援企画運営委員会 委員長）
 <コメンテーター>
 石丸 哲史（福岡教育大学 副学長）
 高田 研（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長）
 小林 真緒子（次世代ユネスコ国内委員会 委員長）
 矢口 輝美（流山防災まちづくりプロジェクト 代表）
- 15:55 閉会挨拶（ESD 活動支援センター）

会場参加者数：145 名

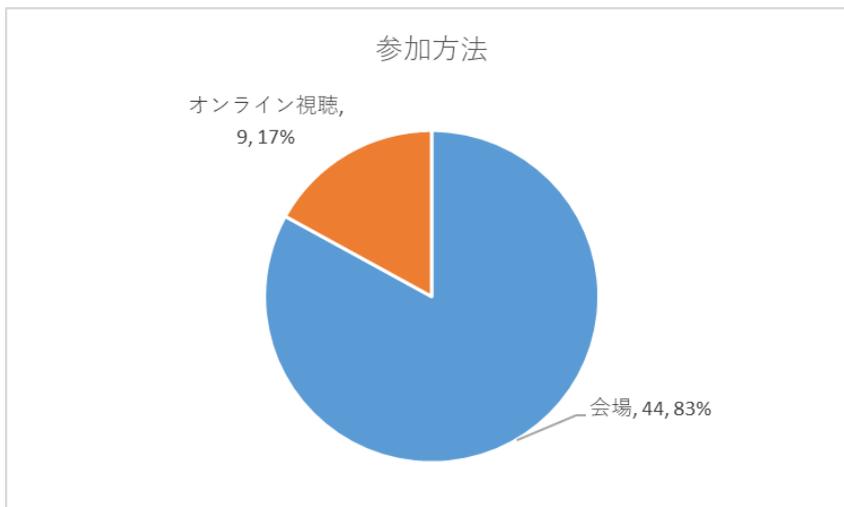
オンライン視聴申込数：52 名

【会場参加者の内訳】



【参加者アンケート結果】（回答数 53）

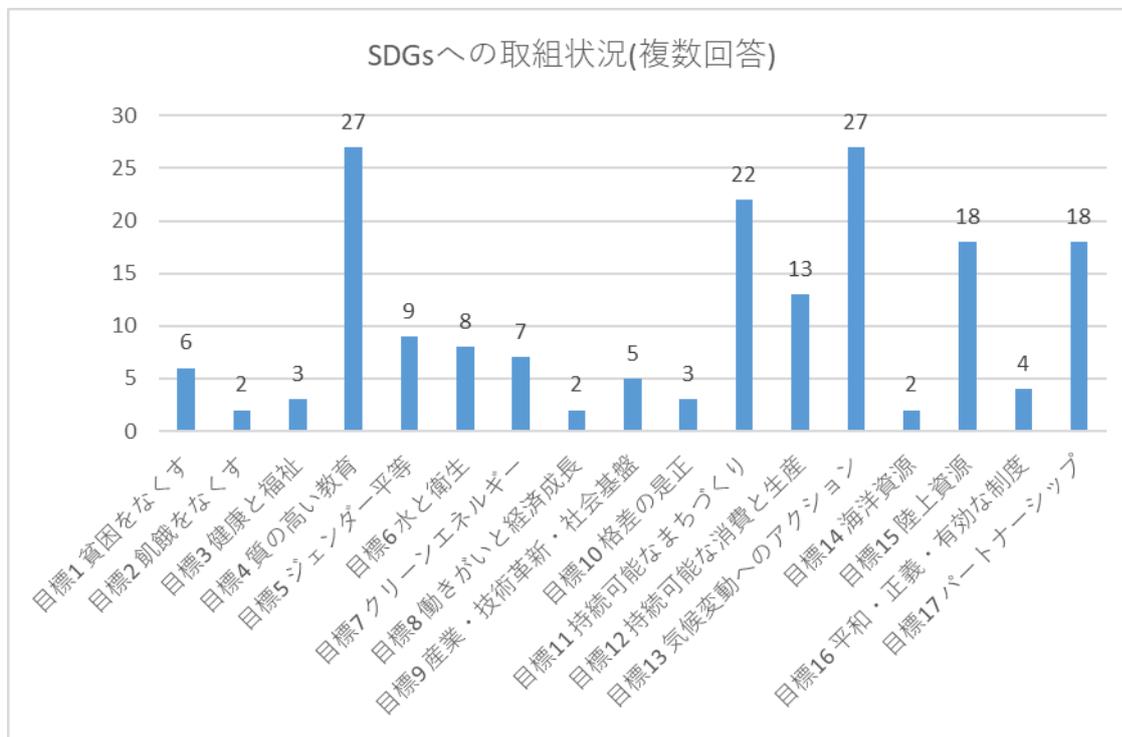
◎参加方法



1. 参加者の属性

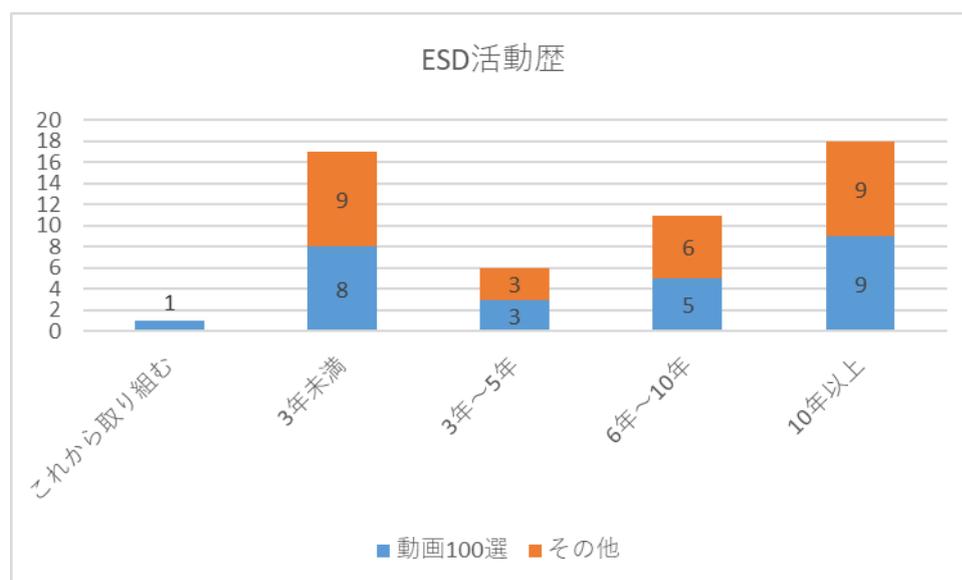
(1) SDGs への取組状況

SDGs4（教育）、SDGs13（気候変動）が最も多く、SDGs11（まちづくり）が続いている。SDGs15（陸上資源）、SDGs17（パートナーシップ）、SDGs12（持続可能な消費・生産）などへの取り組みも多い。



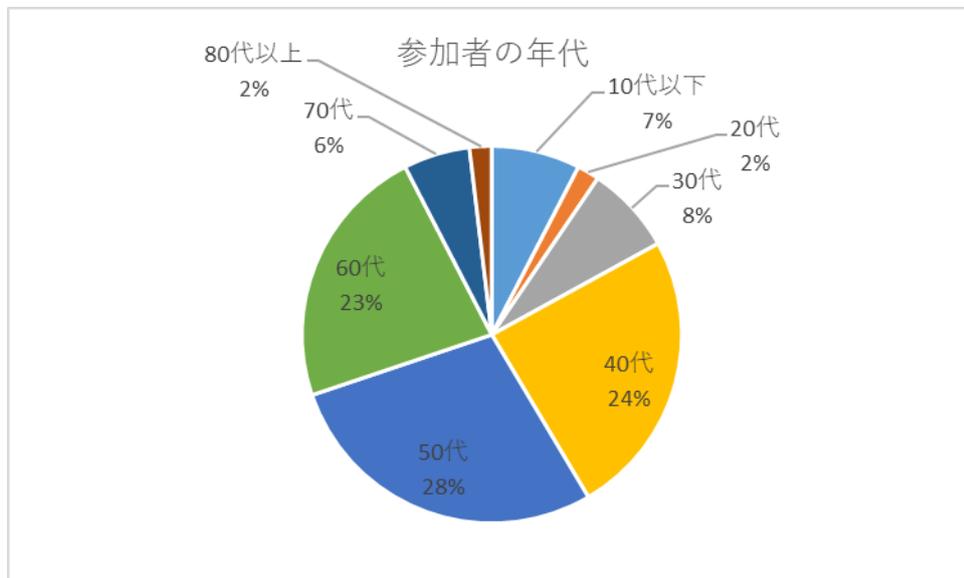
(2) ESD に係る活動歴（経験年数）

10年以上の長期から未経験あるいは経験の浅い層まで、ESDに関する活動歴は多様である。動画100選の入選者についても同様の傾向であった。



(3) 参加者の年齢構成

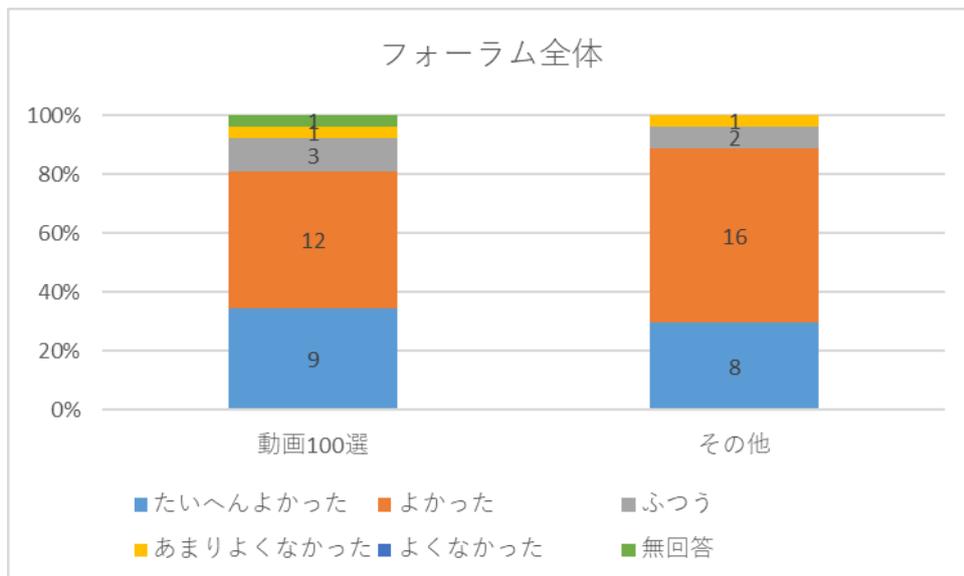
動画 100 選に入選した高等学校から生徒の参加が得られたことにより、10 代の参加者が例年より大きく増加した。例年に比べ幅広い世代からバランスよく参加者が集まった。



2. フォーラムに対する評価

(1) 全体評価及びプログラムごとの評価

【フォーラム全体】



全体を通しての意見・感想

ESD をプロジェクト達成のために活用することから社会変革?行動変容のために活用するためには何が 필요한かを具体的に提示し共有することが、待った無しのタイミングに置かれている中で不可避だと考えますが、今回の表彰事例やセッション2の事例交流内容にも、バックキャスト要素は殆ど感じられませんでした。セッション1に特化した午後にするなど、もっと有意義な時間活用が求められているタイミングではないでしょうか。(公益団体、60代)

学生さんもいる中で、かなり企業・社会人向けの説明が多く、もう少しワークやディスカッションといったフォーラムの中でも参加者がアクションが取れる機会があると良いと思った。(学校、80代以上)

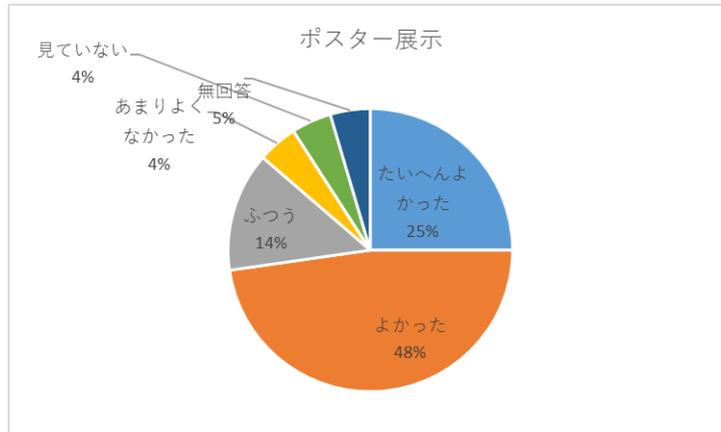
文部科学省・環境省としては、もっと国民運動としてのユネスコスクールの学校関係者に「デコ活」を広めて、民間や行政、団体等の取り組みと学校での学習や取り組みをつなげていく方策を考慮していくと、気候変動に対する認識も広がると考える。(学校、50代)

ここ5年くらいの間に少しずつ教育コンテンツを制作してきましたが、なかなか現場の方達に見ていただける機会、接点を持つための機会に恵まれなかったため、今回は大変有り難かったです。(国の機関、50代)

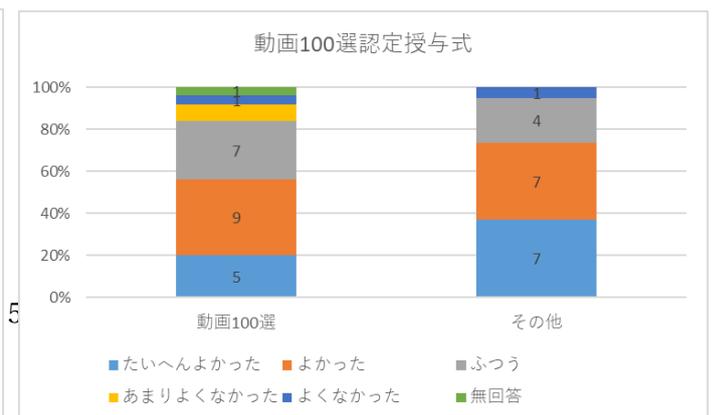
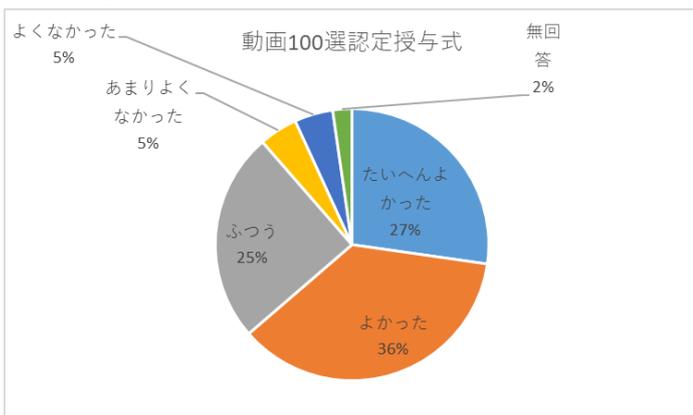
ESD が大人の学びもという点にも注目し始めていることが素晴らしいと感じた。進めていく必要があると感じた。発言の中には、子どもの人権に対する配慮がもう少し必要と感じる場面もあった。子どもらしい取り組みではなく、アクターであることなど。こういったアップデートは、大人が、学び続ける必要がある。(NPO、40代)

※以下の集計は会場参加者の回答(N=44)のみを対象とした。

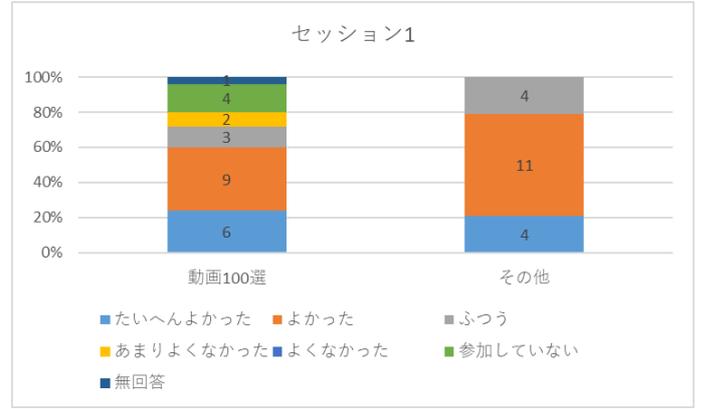
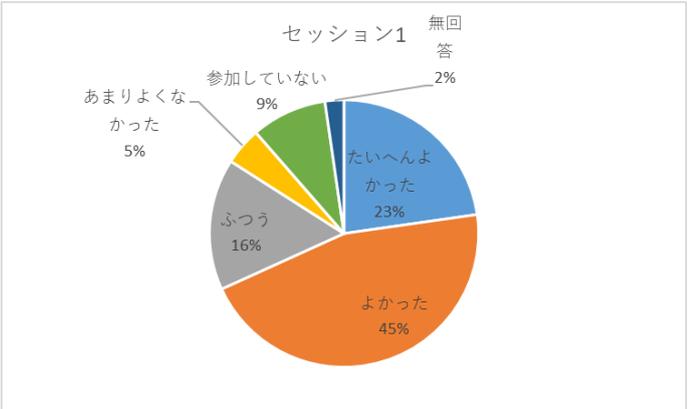
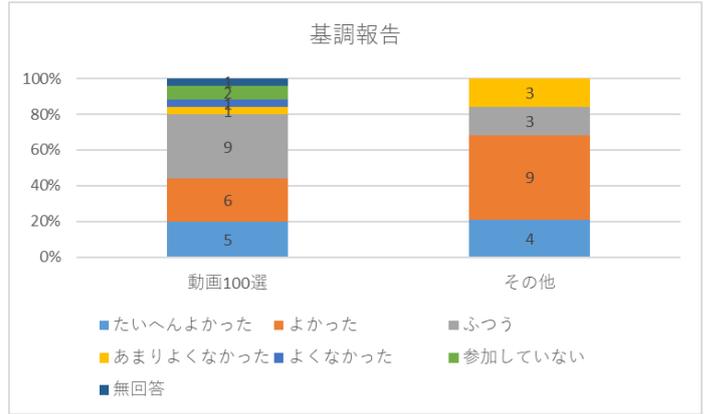
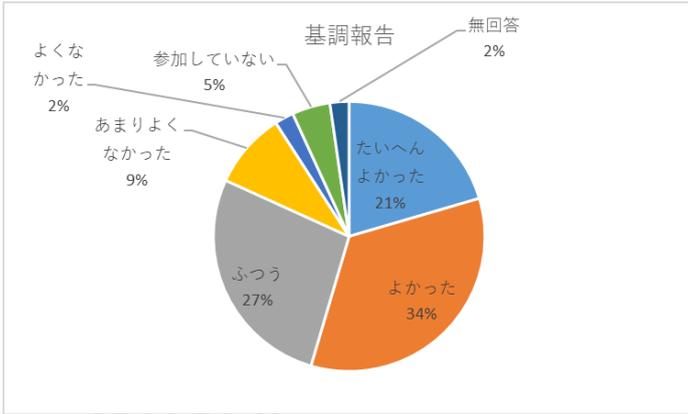
【ポスター展示】



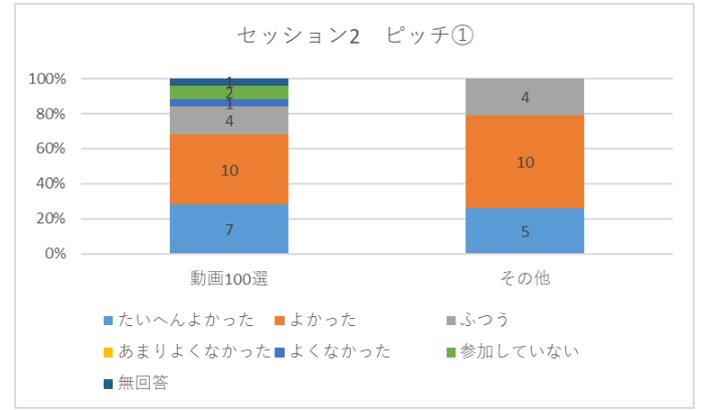
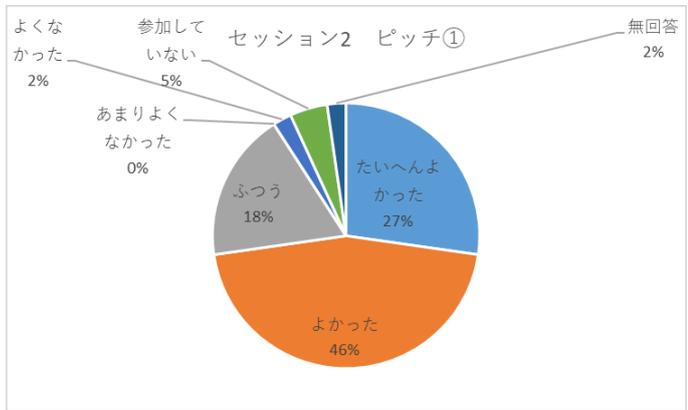
【動画100選認定授与式】



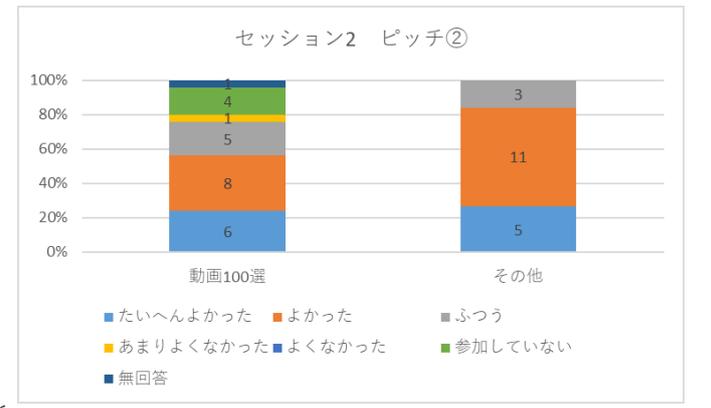
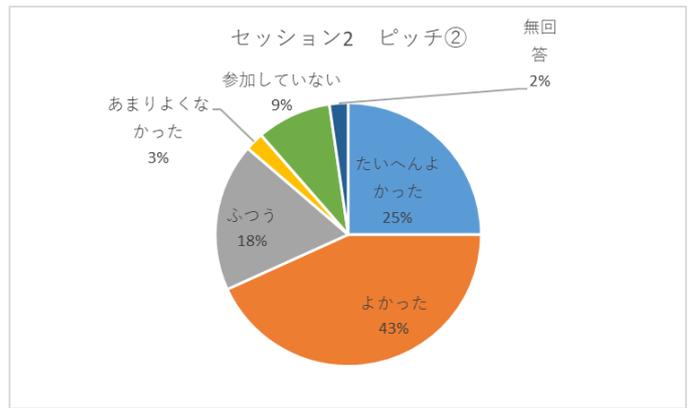
【基調報告】



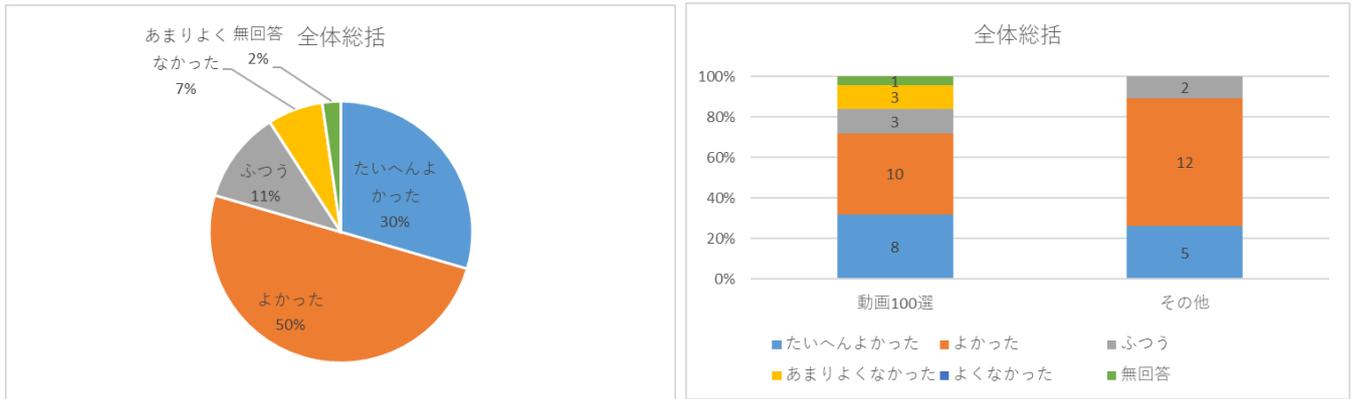
【セッション2 ピッチ①】



【セッション2 ピッチ②】



【全体総括】

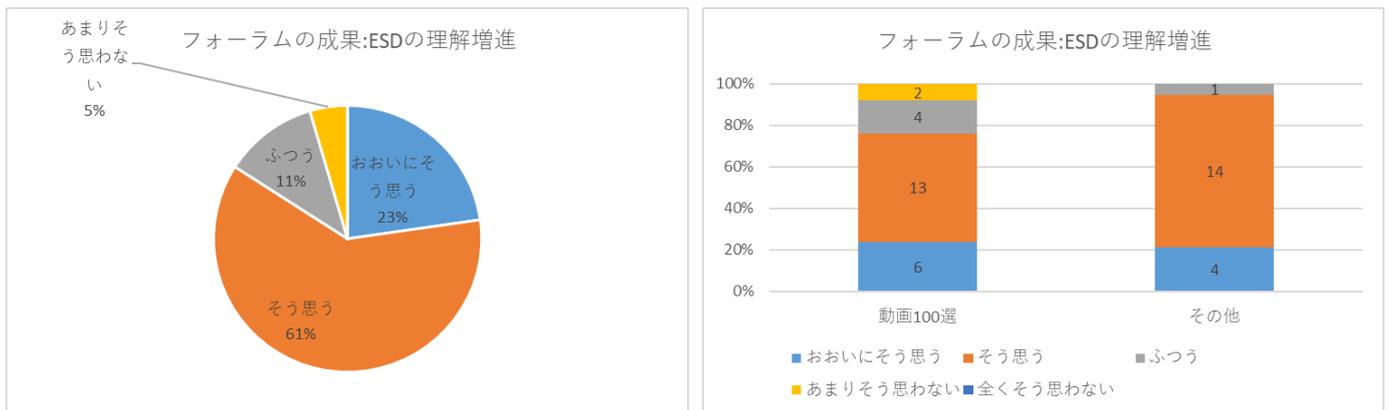


各プログラムとも概ね好評であった。動画 100 選の参加者の中には、認定授与式のための参加に留まった方も一定数いたようである。

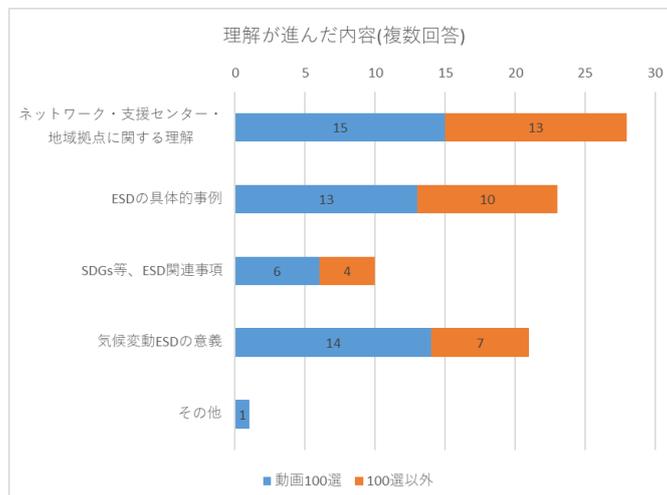
(2) フォーラムに参加して得られたもの

① フォーラムによる SDGs、ESD に対する理解の増進

フォーラム参加の成果として、多くの参加者が SDGs や ESD に関する理解が深まったと評価している（「おおいにそう思う」と「そう思う」を合わせて 84%。）。



具体的には、ESD 推進ネットワークに関する理解が進んだことが高く評価された。フォーラムのテーマである気候変動を切り口とした ESD の意義についても理解を深めることができた。



「その他」に記載された主な意見

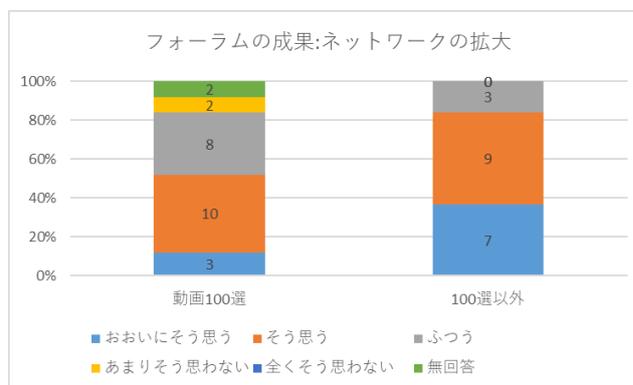
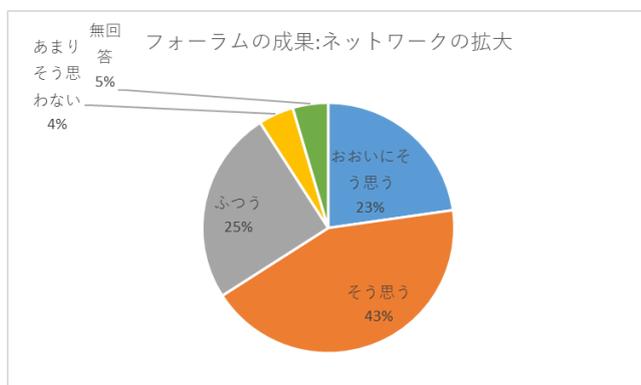
地元でのネットワークについて知らなかったので、大変参考になりました。今後お世話になろうかと考えています。(学校、50代)

10年以上環境活動をしているが、活動拠点があることを初めて知った。

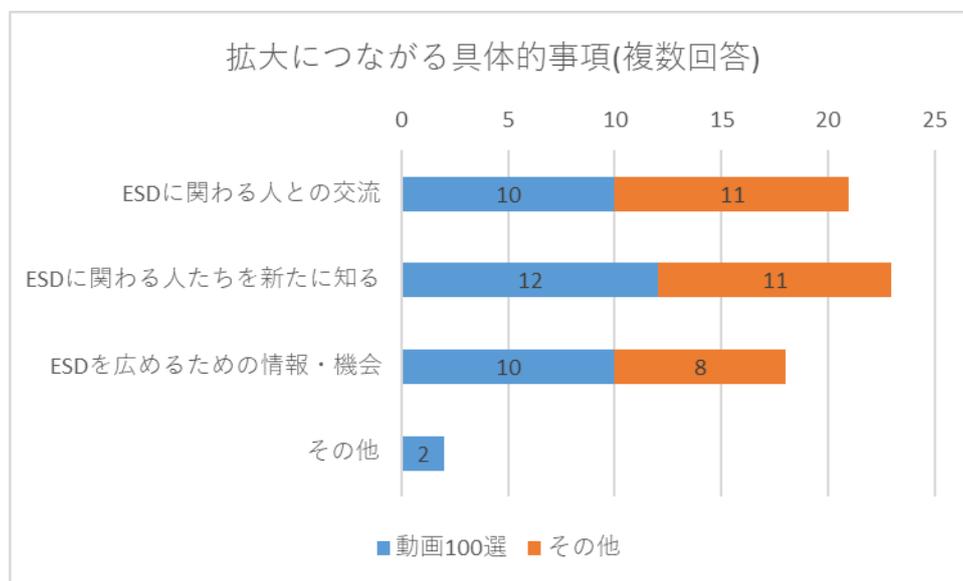
ESD 拠点登録をするとどういったメリット、デメリットがあるのか知りたい。(学校、40代)

② ESD ネットワークの拡大

6割以上が肯定的な回答だった。ポスターセッション形式で実施したセッション2では各ブースで活発な意見・情報交換が行われ、新たなつながり・関係の構築に役立ったと考えられる。



ESDに取り組む組織・人材を新たに知ることができた、ESDに関わる人たちとの交流ができたという意見が多かった。

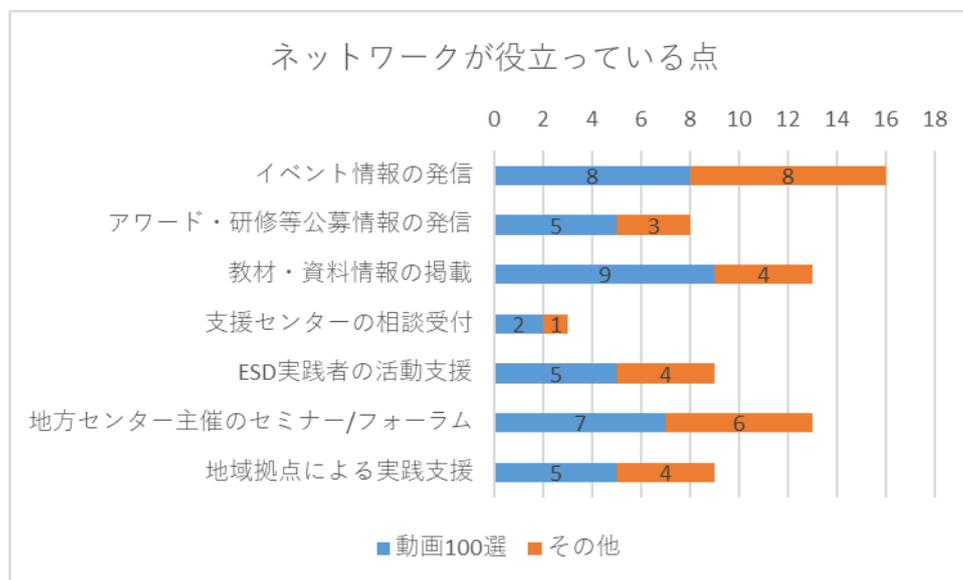


「その他」に記載された主な意見

なかなか現場の方達に見ていただける機会、接点を持つための機会に恵まれなかったので、今回は大変有り難かったです。(国の機関、50代)

3. ESD 推進ネットワークについて

ネットワークがどのような点で役立っているか聞いたところ、情報発信や地方センターが開催するイベント、教材・資料情報の提供という回答が多かった。情報発信や知見の提供という部分ではネットワークの有用性が認知されつつある。



役立った相談の内容（抜粋）
講師紹介がある。授業企画段階の相談が可能（学校、50代）
10月に、関東圏の教育現場（小学校）に、教育コンテンツの紹介、取次をしていただきました。（国の機関、50代）
札幌円山動物園のESDの実践例、および紙芝居といった教材の提供。（学校、80代以上）

役立った支援の内容（抜粋）
中学校での避難所開設訓練と気候変動、地元の被災危険性を紐づけたら、中学生たちが両方をより身近に感じていたことが実感できました。（NPO、50代）

◎ESD 活動支援センターが実施／強化すべき活動（抜粋）

学校教育現場と ESD 活動拠点（社会教育現場）をつなげる具体的な手法、関係性づくり(社会教育、40代)
様々な年齢、職業、立場の方たちとの交流を積極的、活発にしていれば嬉しいなと思います。（NPO、50代）
バックキャストによる目標設定とリスクマネジメント(リスクと機会)を前提とした PDCA サイクルの活用が当たり前にツールとしての活用を出来る人材がいなければ、TCFD も TNFD もまともに開示できる水準にはなりません。大企業の企画部門・意志決定部門にはツールとして活用できる人材がいます。そこがアマチュアの一般的市民団体?市民活動家との決定的な違いだと考えま

す。ツールとして理解し活用出来る人材をどれだけ輩出できたかに焦点を絞って活動されては如何ですか。(公益団体、60代)

パブコメや政策提言など、声の集約、吸い上げ。(NPO、40代)

◎気候変動教育のニーズ・課題・事例等(抜粋)

気候変動によって影響を受けている海、海洋生きものへの影響など。(社会教育、40代)

再生可能エネルギーの現場見学。(企業、50代)

放逐された棚田を田んぼビオトープとして再生。その田んぼで、田植え・稲刈り・収穫した餅米での餅つきをイベントとして、地域の親子に提供している。体験を通じて、生物多様性や里山保全等を学んでいる。今年であれば、温暖化の影響で稲の生育が例年と異なった。そうした、具体事例をお話しさせていただいている。(公益団体、60代)

子供にプレゼンのコンクールをおこなう。発信できる人材をそだてる。(学生団体等、40代)

市民性教育の強化。その実践の支援と推進のためのプログラムの充実。(NPO、40代)

社会科学、特に経済学は重要です。(大学等、60代)

◎ESD全般への意見(抜粋)

ESDの空白世代である20代後半より上の世代への教育機会の提供。(企業、50代)

学校教育のカリキュラムに沿ったESDの導入と外部との連携や協働について、調整の大変さや難しさもあるが、実現したときの成果や教育効果は大きいものであると感じています。今後も継続と展開を図っていきたいと思います。(学校、50代)

気候変動教育というと、また、〇〇教育が増えたとの認識になってしまうので、これまでの環境教育との関係性や、経済社会のあり方についても言及が必要に思いました。(学校、40代)

気候変動という切り口でESDを推進する点に共感した。(公益団体、60代)

SDGsを意識する人とそうでない人の差を感じます。大量生産と本当に必要な仕事の見直し、ゆとり・・社会のシステムをどんなふう具体的に転換していくか、そのようなセミナーがあると良いと思います。(その他、50代)

ユースの大会で、環境の問題のはずなのに、逸脱して商品開発ばかりが目立ってしまうことは、いかなるものかと思う。本来の環境を重視すべき(学校、40代)

以上